

わかさ 議会だより

平成
27年
2月号

第151号



議会事務局のアドレスへ



目次

- P. 2 新年のごあいさつ
- P. 3～4..... 12月議会定例会
- P. 5～10..... 一般質問Q&A
- P. 11 人口減少対策調査特別委員会
- P. 12～13..... 委員会活動報告
- P. 14 わたしの想い(森岡さん、竹本さん)

人力車による花嫁行列

平成26年12月21日（日）に若桜駅前において、かりや横丁の竣工式が行われました。それに伴い、花嫁行列が行われ、長持唄に合わせて人力車が引かれ、宿内をパレードし、たくさんの人に祝福されました。

新年のごあいさつ



若桜町議会
議長 川上 守

新年明けましておめでとございます。
皆様には、お健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年中は、何かとお世話になりありがとうございました。
住み良い若桜町を目指し、本年も力一杯頑張りますので、御支援とご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

今年は、未年です。未年の言われは、群れをなす羊は、家族の安泰を示しいつまでも平和に暮らす事を意味しています。町民の皆様の安全安心で平和な生活を実現するために頑張ります。

改選から一年が経とうとしており、新しい議員も議会に慣れ、議員個々に与えられた職務に責任ある行動が出来てきたと感じています。議長就任当初約束した議会改革をこの一年行い、議員全員協議会・常任委員会の定例化、特別委員会の設置により若桜町に何が必要で何が急がれるのか徐徐に見えてきました。特に特別委員会では、人口減少問題について、細かく議論することができており、出来るだけ早く政策提言出来ればと考えています。また、昨年行った議会報告会で皆さんに頂いた意見を協議し提言書として、

若桜鉄道・人口減少問題について町長に対し昨年12月29日に提言を行いました。内容については、できるだけ早く皆さんに議会だよりにてお示ししたいと考えています。

常任委員会では、農業・林業・観光などいろいろな課題が見えてきました。これらの課題は、中・長期的な課題が多く計画的に進める必要があります。住民の方には政策的に見えにくい部分もあるかと考えますが、議会報告会や出前講座等でしっかりと説明していかなければと考えています。協議をしたことに対し一つ一つ結果を出すことが重要であります。難しいことではありますが、しっかりと協議する体制づくりは出来たと考えています。住民の声を聞き積極的に政策提言出来る議会を目指したいと考えています。

昨年、9月より石破地方創生担当大臣が誕生して以来、地方創生が大きく叫ばれています。若桜町の人口減少は、かなりの速度で減少している中、いろいろな政策をうち出し歯止めをかけようとしています。この地方創生を大きなチャンスとして、思い切った政策が必要です。また、住民の声をしっかりと聴き、住民・議会・行政が一体となって、このチャンスを生かすことが重要です。これからの時代は地方が発展し輝く事が日本の発展に繋がります。地方で考え知恵を出す、若桜鉄道・若桜宿・氷ノ山等、若桜町には数多くの資源があり、これらを生かした地域づくりが急がれます。今年は特に、地方創生に繋がる提言が出来るように、議論を深めて行きたいと考えています。

これからの議会活動にあたり、住民皆様のご指導・ご協力を賜り頑張つてまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

十二月議会定例会

ふるさと納税 更なる増収

一般会計総額

平成26年度
37億1119万円

4325万円の追加補正

専決処分の承認

平成26年度若桜町一般会計補正予算(第5号)

衆議院議員選挙に伴い、歳入歳出それぞれ516万円を追加し、歳入歳出の総額をそれぞれ36億6794万円とするもの。

予算

平成26年度若桜町一般会計補正予算(第6号)

主なる歳入

地方交付税 414万円
国庫支出金 128万円
寄付金(ふるさと納税) 1299万円

繰越金

2318万円

主なる歳出

ふるさと応援基金積立 1269万円
ふるさと納税推進事業 584万円
特別医療費支援事業 735万円
障がい者福祉事業(医療扶助等) △435万円

支援費事業

263万円

平成26年度若桜町介護保険事業特別会計補正予算(第3号)

432万円を追加し、総額6億58万円とした。

平成26年度若桜町簡易水道事業特別会計補正予算(第4号)

54万円を追加し、総額1億2172万円とした。

平成26年度若桜町公共下水道事業特別会計補正予算(第2号)

280万円を追加し、総額1億7664万円とした。

条例

平成26年 第8回 議会定例会は12月9日に招集され、町長から提出された議案15件を慎重審議の結果、全議案を可決し、12月12日に閉会した。

若桜町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の制定について

子ども・子育て支援法の規定において、特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準について、市町村が条例で定めることとなっているため、制定するもの。

若桜町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について

家庭的保育事業等については、子ども・子育て支援法における新たな施設類型として、市町村が認可することとなっており、このことから、認可基準となる設備や運営の基準について、制定するもの。

若桜町新型インフルエンザ等対策本部条例の制定について

新型インフルエンザ等対策特別措置法の規定により、対策本部に關し必要な事項を定めるもの。

若桜町職員の給与に関する条例の一部改正について

平成26年人事院勧告に準じて、平成27年1月1日で実施する昇給について、1号抑制するよう所要の改正を行うもの。

若桜町税条例の一部改正について

住民税の税額控除対象となる寄付金及び固定資産税の納期について、一部を改正するもの。

若桜町国民健康保険条例の一部改正について

健康保険法施行令等の一部改正に伴い、出産育児一時金を39万円から40.4万円へ見直すもの。

その他

工事請負変更契約の締結について

工事名 旧若桜小学校跡地整備工事
変更契約金額

変更前 金78,300,000円
変更後 金82,500,120円

鳥取市と若桜町との定住自立圏の形成に関する協定の變更について

鳥取・因幡定住自立圏は定住自立圏構想の取り組みを始めてから5年を迎え、引き続き、圏域全体の活性化を図るため、定住自立圏の形成に関する協定の變更を行うもの。

Q 一般質問 A

質問者

議員 彦政
議員 明安
議員 雄隆
議員 晴見
議員 裕孝
議員 根山
議員 中山
議員 山本
議員 山本
議員 上川
議員 前住



山根 政彦 議員

【A】 現在観光分野において鳥取県と協力して氷ノ山一帯の観光資源を韓国に売り込み観光客誘致に取り組んでいますし、将来的には特産品の輸出ができないものか研究しています。

【Q】 平昌郡で2018年に冬季オリンピックが開催されます。若桜町にとっても氷ノ山をはじめ様々なPR等が可能となる千載一遇のチャンスだと思いますが所見を伺います。

【A】 若桜町がオリンピックの開催地である平昌郡

小林町長

【A】 現在観光分野において鳥取県と協力して氷ノ山一帯の観光資源を韓国に売り込み観光客誘致に取り組んでいますし、将来的には特産品の輸出ができないものか研究しています。

小林昌司町長

【Q】 この夏に、民間レベルでの交流の先駆けにと、各団体の代表者が平昌郡を訪問しましたが、これは友好交流を一步進めた経済交流の始まりだと考えますが、所見を伺います。

【Q】 何を売るのが、そしてまた何が売れるのか具体的に検討してみていますか。

小林町長

【A】 観光協会や商工会が中心となって、もっと積極的に土産物に対しての開発を議論していただきたいし、そういう中で開発費が必要であれば支援をさせてもらいたいと思っています。

平昌郡との交流

2018年平昌オリンピックは、若桜町を世界にPRするチャンス、若桜町を売り込むチャンスと捉え、積極的な誘客活動を進めていく



平昌オリンピックけん垂幕

と友好交流協定している自治体であることは、韓国からの誘客、PR活動等を行う上で大変有利であり、若桜町を売り込むチャンスと捉えて積極的な誘客活動を進めていくところです。

【Q】 避難場所が公民館となっている集落のうち、公民館が土砂災害警戒区域内にあるところが少なくありません。町民の安全を考えると地域によっては民間施設の活用ができないものかと思いますが、所見を伺います。

小林町長

【A】 アロイ工業(株)、鳥取安泰(株)、安泰ニット(株)、(株)一宮電機若桜工場、(株)ミヤビシヤフ

防災対策

【Q】 10月18日に実施された防災訓練の総括について伺います。

小林町長

【A】 今回の防災訓練は、広島のと砂災害もあり、町民の皆さんの防災に対する関心も高かったように思います。大切なことは各自治会で自主防災組

【A】 毎年度元要望等も踏まえて県に砂防事業、治山事業、急傾斜地事業

小林町長

【Q】 土砂災害警戒地域等に砂防ダム等、防災対策が必要と思いますが、その対策を伺います。

【A】 導入後の管理、各部署の情報発信の決着やルールや権限、更には本町独自のソーシャルメディアの利用にあつたてのガイドライン、そして利用方針などについて検討を深めてまいりたいと考えているところです。

小林町長

若桜町の情報発信

フェイスブックなどの活用を
利用方針などについて検討する

【Q】 町の様々なイベントや出来事を情報発信し、若桜町をPRするにはフェイスブックなどSNSは有効な方法と考えますが、所見を伺います。

【A】 導入後の管理、各部署の情報発信の決着やルールや権限、更には本町独自のソーシャルメディアの利用にあつたてのガイドライン、そして利用方針などについて検討を深めてまいりたいと考えているところです。

人事

●若桜町固定資産評価審査委員会委員の選任
藤原博文さん(赤松)

●若桜町教育委員会委員の任命
福田浩子さん(上町)

第7回臨時会

平成26年第7回臨時会は11月21日に招集され、町長から提出された議案6件を慎重審議の結果、可決し閉会した。内容は次のとおりです。

予算

■平成26年度若桜町一般会計補正予算(第4号)
679万円を追加し、総額36億6278万円とした。

■平成26年度若桜町介護保険事業特別会計補正予算(第2号)
6万円を追加し、総額5億9626万円とした。

■平成26年度若桜町簡易水道事業特別会計補正予算(第3号)
13万円を追加し、総額1億2119万円とした。

■平成26年度若桜町公共下水道事業特別会計補正予算(第1号)
歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳出金額を補正したもの。



本議会の様子

条例

●若桜町特別職の職員の給与及び旅費に関する条例及び若桜町教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部改正について
一般職の国家公務員の給与改定に準じ、特別職の国家公務員の給与の額が改定されることに伴い、一部改正を行うもの。

●若桜町職員の給与に関する条例の一部改正について
平成26年人事院勧告に準じて、所要の改正を行うもの。

陳情書審査結果

12月議会定例会において各委員会に付託した陳情は、慎重な審査の結果、次のとおり決定しました。

番 号	受理年月日	件 名	陳情者等	付託委員会名	審査結果
陳 情 第 1 7 号	平成26年8月1日	林道新設に関する陳情書	屋堂羅自治会長 伊井野 孝一	総務産業 常任委員会	採 択
陳 情 第 1 9 号	9月10日	消費税10%への増税の撤回を求める意見書提出を求める陳情	鳥取県民主商工会連合会 会長 奥田 清治	総務産業 常任委員会	不 採 択
陳 情 第 2 0 号	11月18日	農業用頭首工の改修に関する陳情書	根安自治会長 中田 俊男	総務産業 常任委員会	採 択

請願陳情

請願・陳情は、町民の皆様が町政などについての要望等を、直接議会に書面で提出できる制度です。議長宛に議会事務局へ提出してください。提出された請願・陳情は関係の常任委員会で審査の上、本会議で採決し、採択された請願・陳情は行政に生かされます。詳しくは、議会事務局(☎82-2212)にお問い合わせください。

Q一般質問 A

詳しくは

若桜町ホームページ→各課のご案内→議会事務局→会議録



12月議会定例会の一般質問は、12月10日に行われ、6人の議員が町政の課題について質問しました。質問の要旨と町長の答弁を要約して紹介します。

新編町誌

新町誌編纂に向けた取り組みの状況は？

情報収集等進め、12月中旬に委員会立上げ

Q 平成26年度当初予算で、昭和57年刊行された若桜町誌を30年経た今日までの変化した社会情勢を踏まえた新編町誌編纂にむけ、検討委員会を立ち上げ、意見交換することが決まっていますが、進捗状況を伺います。

高木政寛教育長

A 若桜町誌は昭和44年にスタートし、各専門家が執筆を担当し、難渋を極めながら57年3月に完成しました。新編若桜

町誌編纂については、現在委員会の立ち上げに向け、近年自治体誌の刊行を行った県内外の市町村の状況や編纂の進め方等事務局で情報収集を中心に作業を進めています。なお、委員会は町文化財保護審議委員会を中心メンバーとして、今月12日に開催し、来年度以降の事業の方針を今年度中に決定したいと思っています。

若桜鉄道

八頭町との連携強化策を問う 新社長就任で状況変化連携強化へ実らせる

Q 矢ヶ崎紀子東洋大准教授は本年7月号地方議会人誌で、地域鉄道再生活性化に向けた国の支援策として、上下分離と

A 昨年度鉄道を過疎対策事業対象にする要望活動が実り、本年4月1日から鉄道への過疎債適用が可能となりました。早速本年度から鉄道施設整備費用への過疎債充当ができ、財源運用の助けになっています。また、保守管理費や町公共交通維持基金の積み立てにも過疎債が充当できました。平成26年12月1日現在この基金残高は1億1,954万円です。平成24年度からの累積赤字は約1,475万円ですが、国に提出した鉄道再構築事業計画では、鉄道運行で生じた赤字は、若桜町と八頭町が補填すると決められており、補填財源に基金を活用することが可能です。両町が協調し、必要時に基金を赤字補填に充て、鉄道運行の継続を図りたいと考えています。

小林町長

Q 八頭町との連携強化は必要不可欠ですが、八頭町の児童生徒の交通手段の転換など困難な状況が生まれています。しかし、困難はあっても突破しなければなりません。今町長が八頭町との連携について考えておられることをお聞きします。

小林町長

A 八頭町のバス通学により平成27年4月から鉄道運賃収入が600万円減少します。支出削減は困難であり、収入増加が必要です。9月に就任された山田社長は、観光列車やお買い物列車により沿線のみならず鳥取市の中心街活性化ともなる取組等新たな利用増を図っています。今後収入増のため、無人駅へのテナントの誘致、ダイヤ改正による利便性向上の企画も検討されています。八頭町との連携については、私も八頭町長とたえず緊密に連絡を取りながら進めています。山田社長は地方鉄道のマーケティングの専門家で力量は抜群です。この好条件を活か

し、両町の良い関係を作り、足並み揃え若桜鉄道を支援できるものと思います。

介護保険

問題多い新介護保険実施の延期を 実施体制整え、29年4月に始める

Q 要支援廃止による新総合事業移行等「改正」介護保険制度は、法律で条例により29年3月末まで現行制度を継続できます。私は、関係者や町民に理解を得るため実施を延期すべきと考えますが、如何ですか。

小林町長

A 多様なサービスの充実のための整備に向け、人材育成、関係団体との連携強化など、そのための時間が必要であり、条例を定め、平成29年4月まで実施を延期することとしました。

地方創生

総合戦略に林業を

インフラ整備が重要

Q 地域の実情に応じた環境整備等の基本理念が定められた地方創生法が成立しました。収入間伐を中心とした林業は地方創生の基本理念に沿うと思います。間伐材の搬出経費の削減、森林所有者への収入還元、雇用拡大原木の加工施設の設置等を、地方創生の総合戦略としてはと思います。所見を伺います。

地方創生を推進すべきだと思います。

町内の加工施設が製品の高付加価値化や生産性の向上を図る等を取組まれる場合、支援を検討したいと考えています。

Q 若桜の林道密度は、5.9m/haですが、地域森林計画の目標は14.4m/haです。町内全域を網羅する全体構想を立て、積極的に開設、改良をしてどうか伺います。

A 林業、木材産業を1つの今後のまちづくり、

小林昌司町長

小林町長

A 森林所有者の所得向上、木材産業の振興、雇用機会の拡大等、林業木材産業を若桜の基幹産業として、まちづくりを進めたいと考えています。インフラ整備が重要であり、長期的な総合戦略で、林道網の整備をしたいと思っています。



林道沖の山線の現状

指定管理者

指定管理委託者としての指導は 設置目的に沿った指導をする

Q 今年8月に道の駅桜ん坊で食中毒が発生しました。この時期は防災無線でも食中毒予防を喚起していました。

管理委託した者として、どのように把握しておられるのかお尋ねします。

小林町長

A 衛生教育の徹底を理事長に強く申し入れを行い、県の保健所等の指導の下、衛生管理の徹底を図っていたಿದೆいます。

再発防止に向けて管理委託者としても引き続き指導していきます。

Q 有限会社若桜農林振興の平成25年度監査報告で、「赤字体質が脱却できていないので経営改善が求められる」「設立の趣旨に立ち返った施設の運用及び商品開発を進めていただきたい」と指摘されています。管理委託した者として、どのように把握されているのか、伺います。

小林町長

A 大口出資者という立場で答えをします。平成25年度末の累積赤字は850万円で出資金の6割余りとなっており憂慮すべきと認識しています。若桜町の農業施策と同様、施策を見出すには至っておりません。

集落からの要請に答えた受託事業の掘り起しや味工房の指定管理受託なども取組んでいます。現時点で本年度の単年度収支見込みは黒字になると

Q 指定管理団体の指導について、来年度の事業計画、収支予算等の計画、指定管理委託団体としてどのようなことが検討されているのか伺います。

小林町長

A 設置目的に沿った施設の有効活用を図るよう指導をしていきたいと思っています。

Q一般質問 A



上川 裕見子 議員

Q ガソリン代の高騰や企業等の通勤費上限設定などにより、本町からの通勤者が負担を感じておられます。町内での給油や公共交通の定期券助成を商品券で支給するなど、経済の町内循環を考慮した通勤費助成制度の創設を提案します。この制度は過疎債のソフト事業に該当すると思われるのですが、次年度取り組むお考えはありませんか。

長野県伊那市がすでに導入しています。

A 来年3月、あかまつ団地内に2DKの町営住宅4戸が完成し、4月に公募の予定です。若葉団地の建て替えも、平成27と28年度に多様な世帯に対応した整備計画があります。

小林町長

定住施策

通勤費助成制度の創設を 多角的に検討要す

小林昌司町長

A 通勤者に経済的負担感があることは承知していますが、制度実施には、補助金額の設定方法や公共交通への影響など、様々な角度から検討する必要があります。

Q あかまつ団地一戸建て若者向け住宅は、2戸の募集に各4名の応募があり公開抽選となりました。外れた方に待っていただく対策が必要ではないでしょうか。

健康広場

広場の利用目的は 町民の健康づくりに 役立てたい

小林昌司町長

Q 完成後、広場全体の管理についての様に考えているか伺います。

A 他市の町村では直営管理、部分委託、指定管理等様々な管理がされており、それらの施設を参考にしながら、本町で行える最善の方法を検討します。

高木教育長

Q 使用料金を町民からいただくのか。また、町外の利用者にはどの様に対応されるのか、伺います。

小林町長

Q 若桜鉄道の利用を促進するために、乗車された方の使用料を割引されはどうか伺います。



山本 晴隆 議員

A 町にある他の観光資源等も含めて考えたい。若桜鉄道に乗り込んで、若桜で楽しめる魅力あるツアープランを作る等、会社と知恵を出し合いたいと思います。相乗効果で交流人口の増加につなげるよう、提案を参考に可能な事項は実施に向けて

検討したいと思います。と思います。

町防災

土石災害警戒 地域はあるか 県の調査結果 で見極める

Q 町内にある、古い砂防堰堤の大半は土砂や流木が埋まっている状態です。近年の異常気象で集中豪雨が頻繁に起きる中、早急に調査して対応すべきと考えますが、所見を伺います。

小林町長

A 砂防堰堤は、事業主体の県が5年に一度、調査を行い、結果や本町の要望等を踏まえ、必要に応じて整備しています。

Q 防火水槽に常時給水できる施設はどれ位あるか、所見を伺います。

小林町長

A 町内には防火水槽が40基設置しており、用水路から常時給水可能な物は10基です。その他、30基の水槽は、消火栓、可

搬ポンプなどで給水の必要がある。再度関係自治会に周知します。

Q 防火水槽のない集落もありますが、今年の洪水状況を考えれば、水槽を設置する必要があると考えます。

総合計画にも、「ポンプ車、小型動力ポンプ、消火栓、防火水槽などの計画的な更新整備を図ります」と記載されており、早急な整備が必要と考えるが、所見を伺います。

小林町長

A 水利点検は、毎月東部広域消防署若桜出張所の職員が防火水槽や河川水利を点検しています。現在、全の水槽は使用



常時給水できそうな防火水槽

Q 空き家改修し住宅として貸し出す方法は、1軒新築する費用で数軒の改修が可能。こちらも急いではいかがですか。

小林町長

A 所有者との詰めが今できました。設計に出し、早い機会にやりたい。

若桜鉄道

累積赤字計上 決算は望ましい 方法か 八頭町と協議し 赤字補填したい

Q 平成24と25年度は赤字となり、累積赤字の計上による決算となっていますが、これが望ましい方法ですか。

小林町長

A 平成21年度策定の「若桜鉄道事業再構築実施計画」には、若桜鉄道が赤字を計上した際、若桜町及び八頭町が赤字補填を行うことが明記されていますので八頭町と協議し、早い段階で赤字補填を行いたい。

Q 若桜鉄道再構築事業計画の後半（26年度～30年度）の協議状況及び計画との比較をお尋ねします。

小林町長

A 若桜鉄道及び八頭町と共に再構築計画と実績の比較、検証を開始した。今後は計画と現状の乖離を十分検証し、平成30年度までの計画の見直しの必要性和平成31年度以降の次期再構築計画策定について、関係機関と検討を重ねる予定です。

Q SLの試験運行が打ち上げ花火で終わることなく、本当の意味の沿線活動につながる方策をお考えですか。

小林町長

A 沿線住民が、この機会に様々な取り組みを自ら考え、行うきっかけになればと期待しています。「若桜鉄道Ⅱまちづくり」という感じで、みんなで頑張りたい。

可能な状況であり、元々水利のとれない集落に、設置しています。しかし、全く取れない所も有るので今後の課題だと思っています。

地方創生計画(案) を進める 可能な準備を 望むが

Q 課題が山積する本町では、一刻も早く地方創生計画を策定し、課題解決に取組んでいくことが大切だと考えます。現時点でのお考えを伺います。

小林町長

A 国や県の動向を注意しながら、本町の諸課題を解消するために、何が問題で、何が必要か、誰がやるのか、財源をどうするのかなど、住民や議会と十分に議論して総合的な戦略を検討していく必要があると思います。また早期に出来るものは平成27年度から実施し、本格的な取組みは平成28年度当初予算から事業を展開したいと思っています。

Q まちづくりとの連携には、地域交通網形成計画の策定が必要では。協議されていますか。また、若桜という名で、健康と組み合わせる協働事業としては。

新川企画財政課長

A 来週、広島運輸局と来年度の整備計画の協議をしますので、お訊ねしてきました。

木質バイオマス事業 地域おこし協力 隊員が不在 これから検証 する

Q 林地材残材の収集の地域おこし協力隊員が不在。隊員の将来や定住を見越し、思いをもって募集をされていますか。

小林町長

A これから検証をしないとけない。生産基盤整備、林業事業体の技術者増員等への支援を行い、年間3万～5万と素材生産を倍増させる体制づくりを推進したい。

人口減少対策調査特別委員会

人口減少対策における協議内容を議長へ報告＜一時報告＞

人口減少対策証左委員会では、子育て世代に焦点を当て、移住定住対策として、次年度事業化できる具体策、中期的に取り組むべき政策として、次の通り報告した。

人口減少対策調査特別委員会を下記の日程で開催。

- | | | |
|-----|-------------|-----------------------------------|
| 第1回 | 平成26年6月13日 | 正副委員長の選任 |
| 第2回 | 平成26年7月25日 | 若桜町の人口推移と将来人口等について |
| 第3回 | 平成26年9月3日 | 移住者ニーズ・移住定住施策や対応などでの他自治体との比較等について |
| 第4回 | 平成26年10月27日 | 子育て世代を中心とした移住定住施策について |
| 第5回 | 平成26年11月6日 | 医療・雇用関係の具体策について |
| 第6回 | 平成26年11月21日 | 雇用問題の具体策について |
| 第7回 | 平成26年12月18日 | 人口減少問題のまとめについて |
| 第8回 | 平成26年12月26日 | 議長への報告書にする是非について |

主な報告内容

1 住宅施策

- (1) 公営住宅施策・・・若者向け住宅の増築・若葉団地の建替、改修の具体化
- (2) 空き家施策・・・移住者住宅新築等事業補助金の拡充（補助率や上限額）・「空き家改修費概算算出」の継続実施・町と賃貸契約を結び、町営住宅として貸し出すことの検討
- (3) 持ち家施策・・・伝統的建造物群保存地区制度指定の促進・3世代居住リフォーム助成・住宅の小規模改修に対する助成

2 医療施策

- (1) 医療受給者に向けての施策・・・高校卒業までの医療費助成の創設・高齢者医療費助成の創設
- (2) 医療機関への施策・・・医療機器導入支援・現行奨学金制度の拡充（医療従事者養成のための奨学金制度の創設）・小児医療の体制づくり

3 雇用関係

- (1) 第1次産業施策・・・農林産物の生産から販売を行う事業体の育成・生産から販売までの若桜ブランド化・耕作放棄地、遊休農地の解消・地域おこし協力隊の受入先の拡充・農林業体験事業の創設
- (2) 第2次産業施策・・・新規雇用助成の創設
- (3) 第3次産業施策・・・ITビジネスや芸術家などのクリエイターの誘致
- (4) その他の施策・・・通勤費助成制度の創設・通勤時間の短縮・コミュニティービジネス起業支援・公共交通の利便性の向上（乗継、運賃の検討）

今後協議を重ね、できるだけ早く執行部に対し、提言出来るように考えています。

Q 一般質問 A



前任 孝行 議員

【A】鳥取県としては、平成26年度内に県の目指す方向性等のラフスケッチを提示するスケジュールを進められていまして、主要な部分の提示は平成

【Q】まち・ひと・しごと創生法案が成立し、市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略の努力義務が課せられました。平成27年度中に提案と聞いていますが、どのようなスケジュールでされますか。

27年度に入ってからになると思います。従いまして、盛り込むべき内容の全体像が明らかになるのは来年度に入ってからだと思います。それまでに策定準備作業である人口動向分析や将来人口推定を進め、県との連携を密にして、平成27年度中の策定に向けた取り組みを鋭意進めたいと思っています。

【Q】本町にとって大型事業、中長期的な計画をするのに、とてもよい機会だと考えます。どのような内容を考えられていますか。

【A】現在、議論を進めている若桜町人口減少対策検討委員会や人口減少対策プロジェクトチームからの提案や提言、あるいは議会の人口減少対策調



若者で企画運営して行ったイベント

【Q】人口減少対策の推進本部、プロジェクトチーム、30名による検討委員会等さまざまな会を組織されていますが、どれくらい開催されて、どのような成果が見えてきたのか伺います。

【A】組織された会の成果は、委員、メンバーなど真剣に議論を重ね提言へ

査特別委員会などのご意見などから、すぐに取り組めるもの、検討が必要なもの、さらには従来の取り組みの延長線上にはない次元の異なる大胆な政策も検討していく必要があると思っています。

【A】まず、若桜町人口減少対策検討委員会についてですが、8月末から計5回の委員会を開催しました。16日には人口減少対策本部との意見交換会を開催して提言書の提出を受ける予定にしています。この委員会をきっかけにして委員同士の連携や新たなつながりが生まれ、本町の将来について真剣に考える機会になったなどのご意見をいただきました。

【Q】議会も人口減少対策調査特別委員会を6回開催し、さまざまな意見が出てきていまして、これを今後の委員会でもとめ、来年度予算に反映できればと思っていますが、この度は少し先駆けて「3世代住居リフォーム助成」というのを提案したいと思いますが、町長の所見を伺います。

【A】今後、総合的にこれから取り組むべき施策の1つとして、しっかりと検討してみたいと思っています。

小林町長

委員会活動報告

教育民生 常任委員会

平成26年
10月14日 閉会中の継続審査

町民福祉課 ストックヤードについて

説明 ・工事の状況について。

臨時福祉給付金・子育て世帯臨時特例給付金について

説明 ・現在の給付状況について。

ABI検査、T-DAS、ストレス度チェックについて

説明 ・肝がん検診で、2名の方が早期に発見することができた。

町土整備課 町営住宅等について

説明 ・若葉団地改修は、来年度から計画されている。

意見 ・整備計画にそって、実施されたい。
・住民のニーズ調査を実施してはどうか。

その他 ・土改連と災害時の協定について

教育委員会 健康広場（仮称）について

説明 ・土壌改良を行いながら、遊歩道を施工している。

伝統的建造物群保存地区制度について

説明 ・制度の内容について。

意見 ・若桜には、価値のある文化財もたくさんあるので、早急に着手をして欲しい。
・事前の住民説明も重要である。

智頭町・若桜町議会議員懇談会

H27年1月13日に、智頭町の議員と「若桜鉄道を活用した地域活性化」を演題に、山田社長を講師に招いて、講演を聞きました。



懇談会の様子

平成26年
11月10日 閉会中の継続審査

教育委員会 健康広場（仮称）について

説明 ・工事金額の変更、工程の見直しについて。

意見 Q 芝張りの時期は大丈夫か。

A 芝は、冬場は冬眠するようで、11月中旬でも大丈夫と専門家から聞いている。

教育委員会制度改革について

説明 ・現行は、教育委員互選での教育長の選任だったが、法改正後は、首長が任命する。
・教育長の任期が3年、委員は4年となる。
・本町は、平成28年6月から適用される。

町民福祉課 ストックヤードについて

説明 ・進捗状況について。
・集める品目 ○衣類（布、ふとん）、大型可燃（木製タンス、ベット）、小型家電（パソコン、携帯、デジカメ他）などを検討している。



稼働が待たれるストックヤード

7月6日の「若桜の保険医療を考えるつどい」について

説明 ・若桜町における医療の現状について。

町土整備課 若者向け住宅について

説明 ・建物の内容について。

その他 ・スキー場駐車場から、樹氷スノーピア入口に転倒防止の溝を入れた。

12月4日 12月定例会補正予算等の概要説明

補正予算等の概要説明を受けた。

総務産業 常任委員会

平成26年
10月10日 農業・観光関係について

視察先

耕作放棄地
小船・大野・中原・岩屋堂
若桜駅周辺
若桜駅構内及び周辺農地・清流祭り会場・歴史民俗資料館周辺農地

意見交換

・耕作放棄地の復元、遊休農地利用について
・復元後の農地管理、農産物生産について
・若桜駅周辺の整備について

まとめ

今後再生して作付けできる場所が見えてきた。中間管理機構の利用や、有利な補助制度を検討していただき、再生農地の優先順位を決めて、耕作放棄地がこれ以上増えない施策を行うために、一歩前進したと感じた。
駅周辺については、公共交通調査特別委員会で具体的な提案、意見を出したい。



若桜駅周辺の現地視察

11月12日 若桜町内の企業訪問

訪問先

「和宝工房」「Dear Deer」
「(株)長谷川商店」「(株)アロイ工業」「(株)恵」

まとめ

事業及び雇用の拡大については、個人業者は基盤づくり、企業については積極的に考えられている。町としても雇用や規模の拡大には協力体制が必要と感じた。
宿内、町内に宿泊施設がほとんどない状況を指摘され、「空き家を色々なことに有効利用するべきだ」などの意見があった。

防災訓練について

10月18日に実施された防災訓練の総括訓練結果の検証については、自治会長会でアンケートを行う。
要介護者の避難に問題があることとその他民間企業が避難場所に提供された場合、防災計画に入れる。



企業訪問

12月3日 12月定例会補正予算等の概要説明、陳情継続審査

補正予算等の概要説明を受けた後、陳情の継続審査を行った。

12月25日 農業委員会との意見交換

意見交換

・耕作放棄地について
・特産品の開発についての考え方
・若桜米のブランド化、独自販売ルートの開拓

まとめ

有意義な意見交換ができ、今後も意見交換や積極的な議論の機会を増やしていこうと思う。

わたしの想い



このコーナーでは、議会、議員や議会だより等に関わる町民の皆さんからの御要望や率直なご意見を紹介いたします。



若桜の自慢って??

森岡 則明さん
(若葉団地)

少し前まで「若桜の自慢できる場所は??」って聞かれると、「・・・うーん。見わたす限り山ばかり、どこにでもあるただの田舎だよな・・・。」と、正直返答に困ってしまう始末でした。高校卒業後、故郷を離れ県外へ就職。若い頃はやはり、都会にあこがれもあり、街の生活は楽しかった。しかし、気がつけばまた若桜にいる自分。この田舎のどこに魅力があるのか。気がついたのはつい最近ですが、答えは簡単でした。その答えは、【自然】というもの。「・・・自然なんてどこにもあるだろう??」そう思われがちですが、若桜の自然は全くの別物。実際、この若桜町には年間何万人ものお客様が【若桜の自然】を求めて訪れている。氷ノ山に限らず、若桜の山には、ここしかない希少な動物や植物も確認されるほど。そんな若桜で遊んだ楽しい経験が、私の自慢であり財産です。我が子もこの地で遊ばせたいという思い。若桜の子ども達も、今のうちに若桜の自然で、いっぱいいっぱい遊んでほしいと願います。

今は気がつかなくても大人になった時、きっとこの若桜の素晴らしさに気がついてくれることでしょう。そのためにまずは大人から、子ども達と一緒に、みんなの故郷、若桜で思いっきり遊びましょー！

スポーツを通して

竹本 雅信さん
(山田町)

長男が小学校へ入学する時に若桜へ帰ってきました。その長男も今春高校を卒業し県外で新たな生活を始めます。小学4年から始めた野球も高校まで続けることが出来ました。キャッチボールも出来なかった長男でしたが、監督さんをはじめ、指導者の方々や保護者の熱心な指導により、スポーツでも中学でも県大会へ出場することができました。

私は市内で働いておりますが、「若桜は昔から野球・バレー・スキーが強い」とよく言われます。こうして何年にも渡り県大会へ出場できるのは、出来る子ばかりを集めて作る勝利至上主義でなく、子供たちを熱心に支えてくれる指導者や保護者、地域の方々の応援があつてのことだと思います。当たり前のように毎日グラウンドや体育館で練習ができ、冬は室内球技場を使つての練習ができる環境を与えていただいている町民皆様の理解があつてこそ。「頑張つとるなあ」って声が、子供たちを励まし「ヤル気」にさせ、苦しい時でも乗り越える力を与えてくれたのだと思います。

今若桜の子供は少ない中、一人何役もこなしながらスポーツに勉強と本当によく頑張っています。私の世代も含めて子供たちを育ててきたこの環境を次の世代へも引き継ぎ、そして応援して行かなければならないと思っています。

意見・写真をお寄せください

メール

gikai@town.wakasa.tottori.jp

FAX

0858(82)2222

あとがき

毎年の事とは言え、年末からの冬山での遭難報道には心が痛みます。

スキー場を持つ我が町でも他人ごとではありません。

議会だより調査特別委員会も新メンバーで一年経過します。広報研修会にも参加しました。

より、わかりやすく、読みやすい議会だよりを作成したいと思っております。気のついた事がありましたらお知らせ下さい。

議会報告会のまとめが遅くなっておりますが次号に掲載予定しております。

※訂正：わかさ議会だより150号の11項。第6回臨時会の工事名氷ノ山高原の館を氷ノ山高原の宿、14項のわたしの想いの伊井野さんの中程の3億を300億に訂正し、お詫びします。

議長 川上 守

議会だより調査特別委員会

委員長 青木 一憲

副委員長 山本 安雄

委員 岡田 一弥

委員 小林 誠

委員 山根 政彦